

大和証券 大和証券株式会社

Daiwa Securities

業種 ▶ 金融・証券
構築システム ▶ トレーディングシステム

国内初マーケットメイク方式による夜間株式取引サービス「ダイワPTS」にNexawebを採用

サーバ仮想環境を基盤に構築されたシンクライアント/クライアントPC混在環境とリッチクライアントの融合を実現。取引(PTS)の管理画面をリアルタイムプッシュとリッチUIで実現し、管理業務の円滑な運用に成功しました。

導入背景と課題

- ◎ニーズが高まるPTSサービスにタイムリーに参入する必要性
- ◎高速でリアルタイムなプッシュ機能を要求

大和証券株式会社(以下、大和証券)は、2008年8月8日、個人投資家が夜間に株式を売買できる私設取引システム「ダイワPTS」の提供を開始しました。私設取引システム(以下、PTS: Proprietary Trading System)は、金融規制緩和によって誕生した新しい取引の形態。証券会社が開設し運営する株式や債券の取引を行うシステム(市場)で、立会い時間や取引の手法に独自のルールが認められています。このPTSは、「夜間に投資の機会を確保できる」「夜間に海外の市況を見て投資できる」「昼間の決算発表を見て投資スタンスを決められる」というメリットがあるため、将来個人投資家の人気を集めることが予想されています。

大手証券としては初の参入となった大和証券の夜間取引サービスは、そのサービス内容も注目されています。「多様化する個人投資家のニーズの高まりを受け、大手証券としてPTSに参入すべきという判断がありました。これは、先行他社を競合として意識しているものではなく、オンラインと対面営業の両方のサービスを持つ大和証券ならではのトータルサービスの一部として考えています」(システム企画部長 高橋憲昭氏)。大和証券にとって、PTSは同社が提供するオンラインサービス「ダイワオンライントレード」のサービス拡充の一貫であるわけです。

大和証券のPTSのアドバンテージの一つは、米国NASDAQも採用するマーケットメイク方式(売買気配提示方式)にあります。「マーケットメイク方式は、大和証券のマーケットメイカーとしての本業のノウハウを生かすことができる取引方式です。顧客同士で価格を決める従来のPTSでは取引が成立しづらいという問題点がありましたが、マーケットメイク方式ではマーケットメイカー側、すなわち大和証券もしくは大和証券SMBCが取引の相手となって気配を提示し取引を成立させます。自社取引でポジションを持っている総合証券ならではの強みを活かしたサービスです」(システム企画部 情報システム一課長 上席次長 川岸伸二氏)。

PTSサービスを開発するにあたって重要な要件とされたのが、マーケットメイカー側が気配の提示や約定を確認するための端末でした。ブローカー

が、刻々と動く取引の状況を即座に把握するためのグラフィカルな画面が要求されるのはもちろんのこと、情報を常時遅延なくクライアント側にプッシュ配信できるリアルタイム性能と、信頼性が必要です。「大和証券は全社的にシンクライアントを推進しています。アプリケーションをサーバ側で集中管理できるWebアプリケーションでありながら、シンクライアント環境でリッチな画面を実現することが求められました」(川岸氏)。

そこで採用されたのが、日本ネクサウェブが提供する『Nexaweb Platform』(以下、Nexaweb)でした。システム全体の設計・構築は、大和証券グループのシンクタンクである株式会社大和総研が、Nexawebの導入部分は、金融機関向けに多くのシステム導入実績を持つ新日鉄ソリューションズ株式会社が行いました。

採用の理由

- ◎サーバプッシュの高い性能を評価
- ◎Javaベースのプラットフォームもメリット

「プラットフォームの選定にあたっては、CurlやBiz/Browser、Flashといった主要な他のリッチクライアント技術検証や機能の比較に加え、ベンチマークテストも行いました。全社で導入しているクライアントPC/サーバ仮想環境下で稼働する点と、リッチな画面とシンクライアントの運用管理の容易性を併せ持つWebプラットフォームを求めた結果、最終的にNexawebが最適だと判断しました」(システム企画部 情報システム二課 佐藤大和氏)。

最も評価された点は、サーバからクライアントへの情報のプッシュ機能をプラットフォームが標準でサポートしていることでした。Nexawebの通信部分を担うInternet Messaging Bus(IMB)は、APIの使用でサーバとクライアントの双方向通信を可能にし、HTTP/HTTPストネリングによる独自のデータ暗号化と圧縮もサポートします。開発者は、ビジネスロジックに集中するだけで、セキュアで高速なリアルタイム双方向通信の環境を構築することができます。「サーバからクライアントに情報をリアルタイムにプッシュ配信する機能は重要な要件です。Nexawebのプッシュ機能はベンチマークで期待した性能が出ました」(株式会社大和総研 第一システム本部 証券IT推進部 課長代理 上野宣彦氏)。



企業プロフィール

大和証券株式会社

- 本社所在地
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
グラントウキョウ ノースタワー
- 代表者
代表取締役社長 鈴木 茂晴
- 資本金
1000億円(2009年3月31日現在)
- 従業員数
7387人(2009年3月31日現在)
- 設立年月日
1999年4月26日
- URL
<http://www.daiwa.jp/>

事業内容

有価証券等の売買、有価証券等の売買の媒介・取次・代理、金融商品取引業及び付帯事業

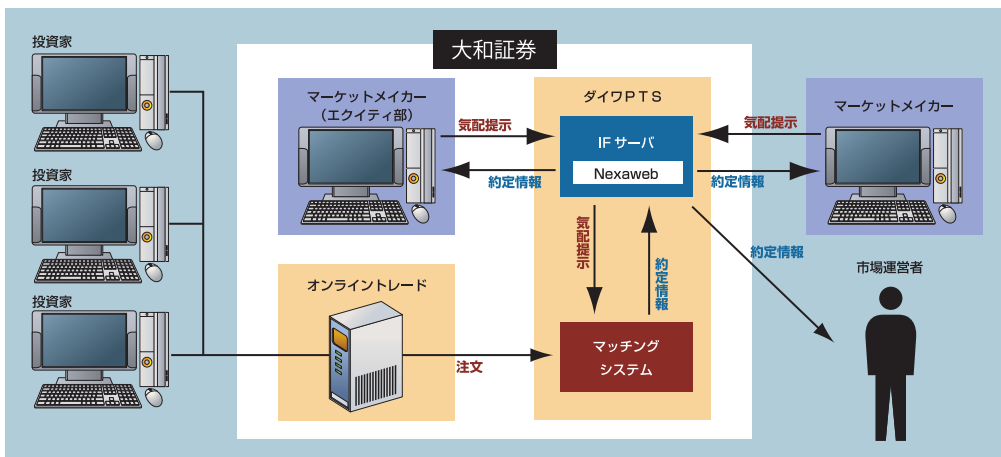
システム開発会社プロフィール

株式会社大和総研

- 本社所在地:東京都中央区新川1丁目20-6号
- 代表者:代表取締役社長 太田 浩司
- 資本金:1,000百万円
- 従業員数:1,360名(2009年3月31日現在)
- 設立年月日:2008年10月1日
- URL <http://www.dir.co.jp/>

新日鉄ソリューションズ株式会社

- 本社所在地:東京都中央区新川1丁目20-6号
- 代表者:代表取締役社長 北川 三雄
- 資本金:129億5276万3000円
- 従業員数:2,243名(2008年3月末現在)
- 設立年月日:1980年10月1日
- URL <http://www.ns-sol.co.jp/>



PTSサービスのシステム全体図。Nexawebは、マーケットメイカーに約定情報を提供するIFサーバ内で使用されている。マッチングサーバは、マーケットメイカーが提示する気配値と投資家からの注文をマッチングし約定させる。IFサーバ上のNexawebは、この約定情報を遅延なくリアルタイムにマーケットメイカーに配信する役割を担う。

一方で、NexawebがJavaベースのWebプラットフォームである点も大きなポイントだったといいます。「弊社は柔軟かつタイムリーなサービス提供のために、常にオープンなプラットフォームを採用したスクラッチ開発をしています。ベンダに依存する技術は、長期的な視点ではリスクが大きいので使えません。弊社のオンライントレードのシステムがすでにJavaで作られていますし、海外の事例や国内での大手金融機関の実績を評価しました」(システム企画部 情報システム一課 次長 石本直毅氏)。

導入効果

- ◎画面部品数が多く開発が容易
- ◎高い開発生産性を評価

プロジェクトは2007年4月から要件定義を開始し、8月から開発に着手し11月から総合テストに着手しました。2008年1月には本番環境への移行が終了し、予想以上にスムーズに進みました。実際には、そこから金融庁の認可を待ったため、2008年8月のサービス開始となりました。「Nexawebにあらかじめ用意されている画面の部品数が非常に多く、これらに若干のカスタマイズを加え組み合わせることで、スピード感ある開発ができました。画面の開発は、従来の約半分の工数で進んだと感じています。サービスの開始以来、障害はまったく出でらず、採用して良かったと実感しています」(佐藤氏)。

現場の評価としては「サービスを開始して間もないのでこれから出てくると思いますが、画面の変更に対応できるのもNexawebのメリットだと考えています」と石本氏。一方でNexawebの企業としての評価について川岸氏は「我々は新しい技術を積極的に採用していくスタンスを持っています。しかし、将来的になくなる技術は当然使いません。勝ち組になれる技術を採用したいと考えています。

サービスが広がっていけば、さまざまなリクエストをベンダに対して出していきたい。それに答えてくれるベンダを選びたいと考えています。Nexawebは、それに答えてくれる会社だと感じています」と語ります。

今後の展望

- ◎他のオンライントレードにも採用の可能性
- ◎変化への俊敏性に期待

現在はまだマーケットメイカーのクライアントのみにNexawebを採用していますが、PTSのユーザーが増えてくれば将来的には顧客側のクライアントにも採用することを検討しています。「大和証券のオンライントレードの他のサービス。たとえば債券や外国株式など、使えるところがあれば今後採用していく可能性があると考えています」(高橋氏)。

システムは既存のブレードサーバに8台のブレードを追加構成されています。Javaというオープンな言語と環境を採用しているからこそ、最初の環境の構築がスムーズにでき、その後の拡張にも柔軟に対応できます。

今後もPTSサービスはマーケットの成長に応じて、サービス内容を変化・拡充していく予定です。そうしたビジネスの変化に迅速・柔軟に追従していくプラットフォームとしてNexawebは評価されています。「システムのライフサイクルを考えると10年は生きながらえるプラットフォーム。常に追加・開発ができる仕組みを採用しています。たとえば、そのサービスメニューがなくなったとしても、他に転用できるというのが採用基準です」(川岸氏)。

PTSサービスのマーケットは、今後確実に成長していくと大和証券は考えています。この新しいビジネスの成長を支えるNexawebに大きな期待が注がれています。



大和証券株式会社
システム企画部長
高橋 憲昭氏



大和証券株式会社
システム企画部 情報システム一課長
上席次長
川岸 伸二氏



大和証券株式会社
システム企画部 情報システム一課
次長
石本 直毅氏



大和証券株式会社
システム企画部 情報システム二課
佐藤 大和氏



株式会社大和総研
第一システム本部 証券IT推進部
課長代理
上野 宣彦氏

※記載されている会社名および製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。
※記載内容は取材日現在のものであり、内容については、予告なく変更する場合があります。



■お問い合わせ先

日本ネクサウェブ株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地4丁目1-12 ビューロー銀座7F
TEL:03-3541-5061 FAX:03-3541-6457 Mail:sales@nexaweb.co.jp

<http://www.nexaweb.co.jp/>

Copyright © 2009 Nexaweb Technologies, Inc.